

清流

題字：芳野 充

令和4年5月30日

第65号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

言葉に宿る力

昔から日本人は、言葉には特別な力が宿ると考えていました。わたしはこの「言葉」について考えるとき、言葉がもつ力によって素晴らしいコミュニケーション力を発揮したあるチームを思い浮かべます。

それは「そだねー」の言葉で話題になり、北京オリンピックで銀メダルを獲得した、カーリング女子ロコ・ソラーレのメンバーです。

彼女たちの試合を観て感じたことは、お互いを信頼し合い常にポジティブであるうとする姿です。その最たるものが、言葉がけだったように思います。わたしが画面越しに目にしたのは、メンバーの指示や意見に対して否定や反対は一切なく、ミスをしても相手を励ます言葉がけや元気づける言葉、また相手を受け入れる言葉のやり取りでした。緊張感が張りつめるはずの試合のなかには、温かみやおだやかさというやわらかな雰囲気を感じたのは、わたしだけではいはずです。

さいきんこの「言葉」というものをつよく感じており、言葉に宿る力を正しく発揮するには、三つの要素があるのではないかと思っています。一つ目は、内容です。内容とは、例えば家庭や職場において相手の良いところをクローズアップするのがグチや悪口を出すか。天気やニュースの話をするにしても明るい気持ちになる話題なのか、暗い気持ちになる話題か、などです。

二つ目は、語調（語気）です。やわらかな落ち着いた語調で伝えるのか、相手を責めるような強い語調なのか。前者は聴く人の心をおだやかにしてくれますが、後者であれば相手の負の感情を湧きあがらせ、人間関係をくずしてしまう要因になります。

三つめは、速度です。相手の理解を確認しながらゆっくりと話をするのか、機関銃のような勢いで一方的に話すのか、です。

わたしがとくに意識しているのは、二つ目の語調です。なぜなら、語調は感情と直結していると感じるからです。「あなたの意見はまちがっている」「言い負かしてやるわ」「そんな意見は聞きたくない」などの感情でやり取りすると、ついつい語調がよくなり、結果、相手の負の感情を引き出し人間関係をくずしてしまった経験が何度もあるからです。

ポジティブな言葉がけにより、ピンと張りつめた試合のなかでもお互いの良いところを出していた彼女たちに習い、相手に元気を与える内容、やわらかな落ち着いた語調、相手がキャッチしやすいスピードで伝えることを意識し、言葉に宿る力を正しく活かしたいと思います。

加来 寛

